

## 高市早苗総務大臣、指定管理者制度推進の地方交付税改定を提起

松岡 要

図書館事業への指定管理者制度導入の問題点は言い尽くされています。冷静、論理的な指摘に対して、市長、当局は正確に答えることを避け、行政的な仕組みすら無視して、情緒的非論理的な言辞を弄して押切る姿勢を露骨にしています。

指定管理者制度は、発案し推進してきた総務省もその後行き過ぎをたしなめる「留意事項」を具体的に記した通知を三度も出す状況にあります。2003年制度導入以降総務省は2004、2006、2009、2012年と、その状況について全国調査を行っていますが、既に2009年調査をみた研究者からは「指定管理者制度導入による財政削減効果は限界に来たのではないか」との行政担当者の意見を紹介して論じている状況にありました(大杉寛「指定管理者制度の目的志向的活用と自治体経営」『地方自治』2012年6月号所収)。2012年調査では7万もの施設に導入していることを明らかにしていますが、3年前から5%程度の増加に止まり、中止した施設が3000もあることも明らかにしています。主要な目的である「官から民」ですが、指定管理者が企業になっている施設は17%に止まり、圧倒的多数7割が役所の外郭団体、財団法人などに止まっています。要するに、完成度の欠けた制度であることが露呈している、と言ってよいと思います。

ところが安倍政権はこれにテコ入れを図る政策を採る動きを明らかにしました。地方交付税の積算にあたっては指定管理者制度導入を前提とし、国家予算を編成するのです。

来年度国家予算は過去最大の規模となっていますが、地方交付税は4年連続の減額です。それ

をさらに促進するために、その算定にあたっては「トップランナー方式」を新たに採用しています。委託などを推進することにより歳出を抑えた自治体の事例を基準に積算額を見積る、というものです。地方交付税で事業の単位費用が計上されている23業務にすべてに適用するとしています。来年度予算案では16業種について着手しており、例えば学校給食については、調理などの職員の給与費を無くし委託料に振替えています。施設の経費については指定管理者制度を採ることにしています。

この方針は、昨年11月の経済財政諮問会議(政府の事実上の最高意思決定機関)において高市早苗総務大臣が提出した「経済・財政一体改革の具体化・加速化に向けた地方行財政の取組について」のなかで提起されているのです。それがこのほど分かりました。単位費用計上対象となっている図書館の管理については2017年度以降、博物館、公民館等とともに「指定管理者制度導入等」を「業務改革の内容」とすることを明らかにしています。ツタヤ問題にとどまる事態ではなくなります。

そもそも指定管理者制度導入を審議した国会では、図書館などを対象としていないことを明らかにし、その後文部科学大臣、総務大臣もなじまないなどと答弁、発言をしていました。自治体が勝手にやっている、という態度でした。それが、政府自ら先導しようとするものです。

しかし高市大臣の説明文には、「教育機関、調査機関としての重要性に鑑み、司書、学芸員等を配置している」との自治体意見があること、「実態と

して指定管理者制度の導入が進んでいないこと」、さらに国会審議において「社会教育施設における人材確保及びその在り方について、指定管理者制度の導入による弊害についても十分配慮し、検討すること」等の附帯決議があることを「課題等」として挙げています。私たちの運動の反映とも言えますが、それだけに政府は実現のためにどのよう

な手法を採るか注視し、対応しなくてはなりません。地方交付税は 2015 年度では、県(標準規模 170 万人)212,578 千円、市(同 10 万人)69,835 千円を単位費用としていますが、指定管理者制度を導入しなくても、これがさらに減額されることとなります。図書館のあり方にも関わることであり、お伝えするものです。(元日本図書館協会事務局長)

投稿

## 信州風樹文庫を訪ねて (二)

—「ツタヤ図書館問題」に関連して

駒田 和幸

(1)

信州風樹文庫といっても一般にご存知の方は少ないかも知れない。風樹の意味は後でふれるとして、読みは「ふうじゅ」で、長野県諏訪市中洲にある市立の図書館の一つである。

諏訪湖岸からは南東方向に直線で5kmほどの距離にあり、JRの上諏訪駅もしくは茅野駅から車で15分くらいである。また、近くに中央自動車道の諏訪ICがあり、そこからだと、車で5分ほど走ると到着できる。

ICの近くというと、車の往来が激しいのではと思われるかもしれないが、全国チェーンの店など並ぶ幹線道路からは少し入ったところにあるので、静かな環境のなかにあるといえる。

(2)

風樹文庫を訪れて、まず驚くのは建物の外観である。現在では、例えば商業施設なり行政機関なりが入っているビルの、あるフロアが図書館になっているケースなども散見されるが、そこでは図書館独自のコンセプトがなく、たんなる「ハコ」としか感じられないこともしばしばである。それに対して、1993年に完成した現在の風樹文庫の建物は、写真にみるように正面入り口の右側に円形の部分を4つ並べたような、たいへんユニーク構造が見られる。しかも、その4つの円形が4段階となって奥にいくほど高くなっている。外壁は茶褐色の落ち着いた色合いの煉瓦でできているが、何かリズムカルな雰囲気が醸し出されている。

文庫の方にお話を伺うと、円形は風樹の「樹」、



樹木の幹をあらわしており、それが4段階になっているのは、手前から明治、大正、昭和、平成という年代を示すためだということであった。そう言われてみると、確かに2番目の円形である大正の部分は15年という年月にあわせて短く、窓もない。奥にそびえる「平成」をあらわす円形の部分が明治・昭和にくらべると少し高いようだが、それは未来に向かっていくことを願ってのことだそうである。なお、その屋根の上には、エンゼルがラッパを吹いている図案の風見鶏がのせられている。それは風樹の「風」を示しているとのことであった。

そして円形の部分の奥には土蔵風の建物があるが、これは初期の風樹文庫が土蔵を利用したものであったことを受け継いでいるとのことであった。

一つ一つの構造に意味が込められている建物だということがよくわかった。

このユニークな外観を見て、私なりの素人解釈を試してみた。3番目の円形、つまり「昭和塔」の外観に時計—諏訪ということでセイコー・エプソン社から寄贈されたもの—があり、風見鶏には南北の方

角を示す矢があることから、この建物は、時間と空間を測定して自らの位置を確認するという近代知を象徴する装置が埋め込まれているのではというものだ。つまり、ここが知的営みの場所であることを自ら示しているように考えたのだが、文庫の方は苦笑されるばかりであった。

それはともかくとして、ここで強調したいのは、人びとにとって行きたくなるような魅力的な空間であるのが望ましいものである以上、たてもものとしての図書館についてももう少し関心を向けてもよいのではということである。

### (3)

しかし風樹文庫は、建物がユニークなばかりではない。その蔵書構成がなんとといってもユニークなのである。筆者がここで文庫を紹介しようと思ったのも、それが一番の理由である。おそらくこんな蔵書構成の図書館は全国でここだけであろう。なんと蔵書約4万3千冊のおよそ8割が岩波書店発行の本で占められており、しかも1947年以降の岩波の本は現在にいたるまですべて所蔵しているという図書館なのである。さまざまな分野の岩波書店の本が書棚いっぱい並んでいる光景は、さすが日本を代表する出版社だけのことはあると素直に感動してしまう。中には、レオナルド・ダ・ビンチの『解剖手稿』という、350部限定出版された、100万円以上する超豪華本もある。しかもそれら岩波書店の本はすべて書店から寄贈されたものなのである。

では、なぜ岩波書店の本を所蔵するようになったのか。それは端的に言えば、岩波書店の創業者である岩波茂雄(1881-1946)がこの中洲の出身だからである。現在、その生家は残っていないが、風樹文庫のすぐ近くにその跡地が残っており、公園として記念碑等が立っている。しかし、岩波茂雄が郷土愛から出版物の寄贈を思い立ったということではない。そもそも文庫が発足したのは、茂雄が亡くなった翌年、1947年のことなのである。つまり、岩波書店の本を求めて働きかけをした人びとがいたからこそ、風樹文庫は発足するにいたったのである。

アジア・太平洋戦争の敗戦後、兵士が復員してきたりして、各地で青年団の活動がさかんになることはよく知られている。長野県の中洲村においてもしかりで、『青年中洲』という雑誌をつくったり、弁論会・討論会など開いたり、多彩な活動をおこなっていた。そうした中で、必要な書物が少ないことから、郷里出身の岩波茂雄が創業した岩波書店に寄贈をお願いしてみようと思いついたのである。

因みに敗戦後の日本で、人びとは如何に岩波書店の本を熱望していたか、数々の証言がある。ここで脇道にそれるが、少しばかり触れておこう。

例えば、野呂栄太郎といえば、マルクス主義経済学者として『日本資本主義発達史』などを著し、1933年治安維持法で逮捕され、翌年30代の若さで獄死した人物として知られている。彼の全集が岩波から1947年に売り出された時のようすを、当時雑誌『世界』の編集に携わっていた塙作樂は、日記に次のように記している。

「それを買うための人が、一番はやいのは既に昨日の午後2時から店頭に来て、徹夜して待っていたという。そして、今朝の5時すぎに来てその行列に加わった者は、すべて買い損ねたそうである。僅か500部しか売らないので。きょうは一日中、それをどうにかして手に入れたいと言ってぼくを訪ねて来る者が相次ぎ、その対応に骨が折れたくらいである」(『岩波物語—私の戦争史』審美社1990年)。

あるいは、同じ1947年に刊行された『西田幾太郎全集』第1巻(「善の研究」などをおさめる)について、小林勇は、「発行所の前には二晩徹夜した多くの人が立っていた。西田の哲学がわかる人が日本には何人もいるとは思われないのに、こういう不思議なことが行われたのである」と回想している。(『編集者の回想録』、『小林勇文集』第4巻、筑摩書房、1983年)。

一昨年、『図書館に通う—当世「公立無料貸本屋」事情』(みすず書房)を上梓された宮田昇氏も、敗戦後に岩波書店に並んだ体験を記されている。

さて、話を中洲村の青年たちの動きにもどそう。1947年1月、上京して岩波書店を訪れて交渉してみたが、不首尾に終わった。その後、青年たちは

再度、掛け合うことになり、その結果、社長の岩波雄二郎(茂雄の次男)の理解を得ることができた。かくしてその年の3月、3人の青年たちは3度目の上京をし、リュックサックに寄贈された201冊の本をつめて中洲村に持ちかえってきた。そして、中洲小学校の応接室に大切に納められたのである。これが、風樹文庫の出発点であった。現在、風樹文庫の2階に「岩波茂雄記念室」があり、本を運んだリュックサックや、記念すべき最初の201冊の書物がガラスケースに展示されている。

一昨年は岩波茂雄が、「誠実真摯なる態度を以て出来る限り大方の御便宜を計」(「開店案内」)ろうと、岩波書店を開業してから百年目ということで、十重田裕一『岩波茂雄—低く暮らし、高く想ふ』(ミネルヴァ書房)と中島岳志『岩波茂雄—リベラル・ナショナリストの肖像』(岩波書店)という2冊の評伝が同時に刊行され、注目が集まった。その岩波が座右の銘としていたのが、中国前漢時代の『韓詩外伝』巻9の次の一節である。

「樹欲静而風不止

子欲養而親不待也  
往而不可得見者親也」

この一節の意味するところは、岩波が基本的な科学研究を振興し、若い研究者の生活と研究を支援すべく、「風樹会」という名称の財団を設立したことを報じた『東京朝日新聞』1940年11月5日付の記事にある彼のことばに明らかである。引用しておこう。

「私は16歳のとき父を失ひ、本当ならば郷里で百姓をすべき所だったが母に無理に頼んで上京させて貰ひ明治41年に大学を出た。ところがその年母は死んだ、以来私の母を憶ふ念はどうすることも出来ず、孝行の出来ない代わりに何か国家社会のために尽くしたいと考へてみたのです、樹静かならんとすれど風止まず、孝行はしたいが親既に亡し一、全く以て長い間の風樹の歎でした、微力ながらこの気持ちをもって学者の養成に努めま

す」。  
文庫名に「風樹」がとられたのも、岩波の座右の銘だったからに他ならない。(続く)

町田市立図書館全館で — 2016年3月23日(水)~27日(日)

## 第5回まちだとしょかん子どもまつり!

町田市内の子どもたち全てが、身近な図書館を日常的に自分の楽しい居場所となることを願って、まず、図書館に足を運んでもらうこと、そして図書館ってのいいな、と思ってもらうことを目的に、市民と図書館の協働で、楽しいイベントをたくさん用意して5日間開催します。詳細は、各館配布のチラシをご覧ください。

### ◇主なイベント案内◇

#### 中央図書館 6Fホール

24日(木)10:30~ オープニング・おはなし会(まちだ語り手の会)

14:00~ 落語を楽しもう(大学生による落語)

25日(金)11:00~ ワークショップ「草花遊び」(野津田雑木林の会)

26日(土)10:30~ 演劇ワークショップ(5歳~)(ピッピのくつした)

14:00~ ワークショップ「動かしおりを作ろう!」好きな本持参(町田の学校図書館を考える会)

27日(日)10:30~ 絵本で国際交流(協力:町田国際交流センター・西東京朝鮮第二初中級学校)

14:00~ ビブリオバトル お勧めの本の書評合戦/終わりの会(実行委員会)

文学館 25日 10:30~ わらべ歌で遊ぼう。親子でどうぞ!(かえで文庫)

26日 10:30~ ことば遊び。3歳~おやこでどうぞ!(桃の樹工房)

他にも...おはなし会(全館で! /おはなし如雨露・うさぎの会・おはなしはすの実・チョコの会・柿の木文庫)

藪内正幸絵本原画展(忠生図書館)、「SLが町田に」(展示とおはなし/まちだ史考会)、町田の地名(展示/町田地方史研究会)、ブックトーク(町田ブックトークの会)、読書会(ピッピのくつした) etc...

### 広瀬恒子氏講演会「どの本読もうかな?!

3月27日(日)10:30~12:30

町田市民文学館大会議室

子どもの本と子どもをめぐる社会情勢等と共に、2015年度発行の新刊本の中から、お薦めの本をお話くださいます

(資料費500円)

### 町田の図書館活動をすすめる会

問:増山(042-722-1243)

## 静岡市立図書館見学&静岡図書館友の会との交流

去る1月31日(日)、今年度の活動の一つとして楽しみに待っていた静岡への表記の会に9名(久保.斎藤+中学生の孫.清水.手嶋.増山.丸岡.山口)が参加、図書館2館見学と静友の会(会員247人)の田中代表初め運営委員6名の方たちがトモエ文庫に出迎えてくださっての和気あいあい、たのしい交流が持たれた。

朝、静岡駅改札口に集合し、まずは静岡大学の跡地に建てられたという静岡市立中央図書館へ行きました。図書館の入り口は照明を落としている感じで「えっ? 暗い…」と一瞬思いましたが、中に入るとなんと明るくて四方が窓ガラスのため外光が降り注ぎ、たくさんの木々に囲まれているので大層心地よく贅沢な雰囲気でした。

ゆったりした室内は、通路も車いすが楽にすれ違いきそうなくらいに広く、本棚の作家名表示の看板も大きくて見やすいものでした。児童のところでは、高価な大型絵本が自由に手に出来るようになっており驚きました。午後に伺った御幸町図書館でもそれは同じでした。

棚のそこここに置かれている A5版サイズのパンフレットは、「BOOK 通リスト」(ブックツーリスト)と名前をつけられ、さまざまな調べもの案内をしており、本に親しむ人々に感謝されているに違いありません。「ひらけゴマ!」というテーマ特集のチラシも「魅力的だな」と思いました。

今回の図書館見学で、一番の印象的で感銘深かった事は、草谷桂子さんのトモエ文庫でした。34年前にご自宅の一室を解放され、以来ずっと文庫活動をしつつ、地域に根差した図書館運動をなさっている実態に触れ、志を一つにする素晴らしい仲間にも恵まれての息の長い地道な道のりを聞かせていただき、わが身の存在を恥たことでした。

どっさりの資料と草谷さんの著作『ジェンダー・フリーで楽しむ こどもと大人の絵本の時間』(学陽書房)をお土産にいただき、帰宅してずっと読みふけている現在です。 (丸岡和代)

中央図書館の見学は、静岡図書館友の会(以下

「しずとも」)の草谷さんの案内で、こどもコーナーから YAコーナー、一般開架、レファレンス室の順に見た。

こどもコーナーでは、パスファインダー(資料の探し方についての手引き)が豊富に置かれていたのが印象に残った。市立図書館の職員の中には、学校図書館の経験者がいて、その経験を活かして「調べ案内」を作成しているとのことだった。調べるだけではなく、あるテーマについての読書案内にもなっていることに感心した。

昼近くになって、草谷さんと「しずとも」の山下さん、そして「すすめる会」の山口さんの車3台に分乗して、交流会の会場である草谷さんのご自宅(兼トモエ文庫)に向かった。

トモエ文庫を見学させて頂いた後、用意してくださったおいしい弁当を食べながらの交流会が始まった。弁当以外にも煮物、漬物等のおかず、飲み物、果物、お菓子がたくさん出て、食いしん坊の私にとって最高のもてなしだった。もてなしは食べ物だけにとどまらず、車で送迎、たくさんの資料、「しずとも」の活動報告等、多岐にわたっていた。

自己紹介を兼ねて、お互いの活動を紹介し合ったが、「しずとも」の活動は、「すすめる会」の活動よりも幅広く、多岐にわたっていると感じた。組織としては「しずとも」は「すすめる会」の10倍以上の会員がいて、規模が大きく異なっている。

私にとって「しずとも」は、住民の図書館運動を従来の要求型の運動から、あるべき図書館像の提示、図書館政策をつくる主体へと転換したパイオニア的な存在である。

楽しかった交流会もあつと言う間に時間が過ぎてしまい、草谷さん宅を後にし、静岡駅近くの御幸町図書館に向かった。見学には、佐久間さんが同行してくださった。御幸町図書館は「ビジネス支援」で有名だが、外国語の図書がたくさん揃っていることに感心した。

最後に、「しずとも」代表の田中さんを始め、多くの皆様にお世話になったことに感謝し、図書館見学&交流会の報告としたい。 (手嶋孝典)

## 第16期図書館協議会 第5回定例会報告

1月28日(木)15:00~ 中央館6階中集會室

### 【館長報告】

#### 1. 教育委員会にて報告

・12月4日・・・町田市立図書館資料受渡し事業実施要綱の一部改正について／カラーバーコードを使っての初めての蔵書点検結果について。ほとんどの館で不明本が減少／文学館「児童読物作家・山中恒一子どもと物語で遊ぶ」展の開催(1/16~3/21)と関連事業／「第9回文学館まつり」(2015/10/25)。フリーマーケット、映画上映会等19企画イベントに、街づくりの会、商店会、子ども会なども参加。入館者数1170人(昨年1092人)

・1月8日・・・文学館「没後25年 日影丈吉と雑誌『宝石』の作家たち展」(2015/10/17~12/20)報告。観覧者数2667人 目標達成率66.7%

2. ばお分館図書館サービス・・・2016/1/12(火)より開始。予約本の用意は堺図書館で。開始より14日間で64冊。順調なスタート。

#### 3. その他

①平成27年度東京都多摩地域公立図書館大会(2016/2/2~4。於多摩市関戸公民館)・・・第2分科会「児童サービス」.内藤直子氏講演会「子どもが本と出会うために」.町田が実施した多摩地域の子どもたちの読書環境調査の報告あり。

②利用者アンケート・・・3年ごとに外部委託での実施から今回は予算の都合で自前実施。全館での回答1800人。3月~4月頃結果判明予定。

#### ・質疑応答

Q:文学館の点検資料数の増加原因は?・・・貴重書を除く地下書庫1の点検を増やしたため。

Q:不明本の扱いは?・・・3回連続不明本をOPACから削除する。

<館長より前会議の補足>ばお分館の図書を確認したところ、長く読み継がれている定番の絵本が揃えられていたという事がわかった。

### 【協議事項】

・委員長より館長に、町田市立図書館の図書館外部評価に関する報告書を提出。

### <図書館評価を終えての感想>

・3段階評価でなくなったのは良かったが、新評価初年度なので単年度での評価は難しかった。評価をしている間にたくさん質問もさせて頂き、図書館の理解を深めることができた。

・図書館だけでなく市の様々な部署とどのように連携しているかなど勉強になった。

・レファレンスや障がい者サービスなど自分とはあまり縁がないようなジャンルを担当したので、グループで話し合う中で様々な疑問が生まれてきた。それに対して図書館の方が丁寧に回答してくださったり、それを文章にまとめて図書館に提出したりという対話によって評価が進んでいくという手順は以前の評価に比べると良いと思った。

・どこまで踏み込んでコメントを書いてよいのか非常に難しかった。とてもこまかく項目が分かれていて一つ一つについて図書館からとても丁寧に情報提供していただけたので、図書館全体の様子がよくわかって、自分の情報源とすることができた。今後経年で見ることで、生きてくると期待している。現在置かれている図書館の状況は評価だけで解決できるものだけではない。たとえば資料費の問題などは協議会だけで解決できる問題ではないと考えた時、市民として何ができるかというところまで立ち返って考えることが必要だと感じた。

・新しいやり方になったということで詳細で率直な情報を提供していただけたと思う。このような評価を蓄積することで具体的なことを図書館と一緒に考えられるのではないかと思った。図書館の視察が後になってしまったが、実際に見て知ることによって深く評価ができると感じた。現場を知ることや職員の様子を見せていただくことが大切と思った。

・前回までは目標に対する達成率を見ればよかったのである意味簡単だが、新評価は現場まで把握していないとコメントはできないなと感じた。しかし、このような評価を続けることで図書館と共に考えていく素地ができたのではないか。また、協議会は図書館と市民の架け橋としての役割もあるので、ここで得た経験を周りの人に伝えていきたい。

館長:1年目の委員の方には、すぐに評価してい

ただくことになり、申し訳なく思っている。また、視察後に評価をした方が良いとは思いますが日程上そうできなかった。外部評価については、図書館に持ち帰り、検討させていただきたい。また、評価にズレ等があった場合には協議会で説明し次回に向

けより良い評価ができるようにしていきたい。

・今後の協議会での検討課題・・・外部評価の提言に関する事項は今後も検討するが、その他に協議する課題があれば委員長に連絡する。

★次回定例会:2月25日(木)15:00～.3月は休会

## 町田市子ども読書活動推進計画 第三次スタート!

### 推進会議(第10回)が開かれました 増山正子

「読書環境の整備は地方公共団体の責務である」と明記された「子どもの読書活動の推進に関する法律」が国で定められ(2001年12月)、町田市では、東京都が市区町村へ期待する役割を踏まえて、「町田市子どもマスタープラン(2004年12月策定)の中に組み入れる形で、「第一次町田市子ども読書推進計画(以下、読推計画)」(2005～2010年度)が出されましたが、プランの冊子末尾の項「計画の推進に向けて」に付録のように綴じられたものでした。読推計画は、カプセルの中に隠されたようで動きが見えませんでした。

マスタープラン策定作業部会には、図書館関係からの市民は入っておらず、10年計画とする膨大なプランの中に、読推の閣議決定で謳っている「読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていくうえで欠くことのできないものであり、社会全体でその推進を図っていくことは極めて重要であり、心豊かに成長するために大切なことである」とする、子どもの読書活動の向上についての取り組みは、希薄なものでした。

市民の声に応じて図書館側は、第二次策定に当たっては、庁内関連部署の課長による策定委員と市民の関係者らによる懇談会委員を設置、市の教育プランに則り、基本理念に「自ら進んで本を読む子を育てる」を掲げ真剣に話し合いました。2010年3月に策定した**第二次五か年計画**の末尾には、計画の進捗状況等についての意見交流、必要な助言等を行うとする「**計画の進行管理**」を新たに設け、14名の推進委員【校長代表・PTA連絡協議会代表(小・中学校)、私立幼稚園協会の代表、法人立保育園協会の代表、ボランティア代表(図書館・学校関係)、子育て推進課長・子ども生活部児童青少年課長(子ども生活部)、学校教育部教育総務課長・学校教育部指導課長・生涯学習部図書館長(教育委員会事務局)】による**推進会議**が持たれるようになりました。

しかし、第三次計画は、学校教育と社会教育の庁内関係者2部構成の策定委員会で推し進められ、推進委員のメンバーは傍聴を許され意見を述べるというにとどまりました。ソフト面の施策が欠如している点について指摘しましたが、委員会の方たちも庁内の予算配分が少ない中で努力されたのですが、「人」に関する考慮は計画に反映されませんでした。

2015年2月、その**第三次推進計画**が策定され、去る**2月16日(火)**には、2015年度前期の取り組み状況についての推進会議(第10回)が開かれ、各関連部署より35項目に亘る計画の事業報告がなされました。しかし、2年1期の委員(再任あり)が入れ替わる中で、1年に2回の会議は、活発に意見を述べるという迄には至りません。また、「自ら進んで本を読む子を育てる」という読書活動計画の推進を諮るこの会議に、積極的にこの計画を推進していきたいと意欲を持って参加されている委員よりも、担当だからとか順番で仕方なく委員になられたのではと思われる方が多いように感じられ、今一盛り上がりがありません。

今回初めて参加された方が“役所の方たちを含めこんなに熱心に会議が持たれていたとは、すごいことだ”と驚いておられました。子どもの居場所を網羅する人たちの集まりでもあるこの会議が、子どもの身近に本があり、子どもと本を結ぶ人がある環境が整うことを願って真に話し合うならば、読推計画は2倍にも3倍にも推し進められ、町田の子どもたちの読書環境は向上するに違いありません。(推進会議委員長)



# ひろば

定例会 1/26(火) 報告

- ・16:30～197号刷(手・増・多・清)
- ・18:00～20:00 中央図書館中集会室

出席: 近藤、齋藤、清水、菅原、鈴木(眞)、多田、手嶋、増山、守谷、山口

文学館主催で楽しむ おとなのためのおはなし会

2016年3月17日(木)10:30～11:30  
町田市民文学館 2F大会議室

プログラム (106回)

- ・町田ゆかりの作家 田中伸尚 菊池とも子
- ・語り 島の暮れ方の話(小川未明) 大澤里子
- ・語り 手なし娘(日本の昔話) 濱田あい子
- ・語り 白い石のカー(インディアン)の伝説) 増山正子

直接会場へどうぞ! 保育有

問合せ: 町田市民文学館 ☎042-739-3420

●会報について…巻頭言は元日本図書館協会事務局長の松岡要さんに執筆をお願いした。その他、静岡の報告、協議会定例会報告、協議会視察報告、駒田氏原稿(続き)、子どもまつりお知らせなど。

●静岡市立図書館見学&静岡図書館友の会との交流について…1/31(日)静岡駅10時10分集合⇒中央館見学⇒草谷さんの文庫⇒御幸町図書館見学⇒静岡駅解散(今号5頁に見学と交流の報告)。

●図書館ホームページについて(館長からの回答)…

①都立図書館協力貸出に関する町田市立図書館長名の「お知らせ」の復活。②図書館協議会の過去の提言書類のHP公開を希望。③和光大学との協力関係(地域の公立図書館と大学図書館の協力)についての記事が削除されているので回復を。館長の回答は、HPの中には図書館員が自由に触れられない部分があり、外注のため費用が掛かるので、しばらくは対応が難しいとのことだった。利用者に対する説明責任を果たすべきであり、地域に開かれている大学としての取り組みなので載せてほしいとの再要望の結果、予算の現状もあるが、今後の対応を考えるとの回答が得られた。

●としよかん子どもまつりについて…ビブリオバトル:町田総合高校の生徒参加、実行委員会と共催をする形ですすめる会から5,000円を拠出、図書館予算ゼロのため、外部スタッフの必要経費に充てる/募金箱を作って、関係者からカンパしてもらったかどうかという話が出ている/「落語をたのしもう」(桜美林大学落研に依頼)は、文学館からの実行委員が担当/オープニングおはなし会は、まちだ語り手の会が担当。去年も参加したこひつじ保育園等、近隣の園に呼び掛けて集客に努める/3月8日実行委員会/3月14日10時から中央図書館のエレベーター脇ガラスケース&3・4階平台の展示作業をする。すすめる会で展示するものを次回例会までに各自考えて案を出す/会の宣伝もする(アイデア、リーフレット、会則改正など次回の例会で検討)。

それまでに何か考える、おすすめ本を考える=展示/3月27日午前 文学館にて広瀬さん講演会/3月27日撤去(17時以降)/今回は、児童だけでなく、障がい者サービス、ブッカーかけ(フィルム装備)など色々な活動も参加/広瀬さん講演会のチラシ作り。

●図書館六分会協議会との話し合いについて…六分会協議会の都合で3月に入ってからを予定する/第1・第3・第5木曜日または金曜日で六分会協議会に予定を組んでもらう。

●団体及び個人からの報告

- ・囑託労:28日(木)、囑託スキルアップ講座
- ・まちだ語り手の会:市などが既に採話している話を、子供たちに語るための再話作業を行っている。「町田の民話」Part IIとしての冊子を願っているが…。
- ・第19回町田市「創作童話コンクール 表彰式・作品発表会」/2/7(日)13:30～ひなた村カキオンホール
- ・学校図書館を考える会:連続講座3月6日「たのしい学校図書館をつくらう」(文学館)図書館まつりワークショップ(3月26日、図書館まつり)
- ・柿の木文庫:図書館協議会での提言が生かされ、12月に駅前図書館(おはなし会室)で初めてのお話会(図書館と共催)が実現(多くの参加あり)
- ・齋藤:「芥川賞」受賞作家の滝口悠生は、町田に縁があり、築田寺によく来ていた。

●田井郁久雄さんとの懇親会について…1月7日(木)田井さんが上京された機会に懇親会を開催した。

あとがき 今号の巻頭言は、松岡要さんをお願いしたが、当初の原稿を急遽差し替え、昨年11月の経済財政諮問会議に高市総務大臣が提出した「経済・財政一体改革の具体化・加速化に向けた地方行財政の取組について」の提起に関わる記事を掲載した。松岡さんによれば、図書館の在り方に関わるとんでもない事態のことだ。(T)